

高知県感染症発生動向調査（週報）

2014年 第36週（9月1日～9月7日）

★お知らせ

○デング熱について

全国では国内で感染したと思われる症例が報告されていますが、県内では36週まで国内感染による患者の発生はありません。（今年は5月に海外渡航歴のある方のみ1例となっています。）

デング熱は、デングウイルスの感染によりおこる急性熱性感染症で、発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹などが主な症状です。人から人への感染は無く、ウイルスを保有した蚊に刺される事で感染します。長袖、長ズボンを着用し、虫除け剤を使用するなどして、蚊に刺されないようにしましょう。

デング熱に関するQ&A：http://www.mhlw.go.jp/bunva/kenkou/kekaku-kansenshou19/dengue_fever_qa.html

○夏型感染症（ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱・手足口病）にまだまだ注意しましょう！

定点医療機関からの報告数は、ヘルパンギーナは県全域で増加し、安芸、幡多福祉保健所管内で注意報値を超えています。咽頭結膜熱は県全域で増加し、幡多福祉保健所管内で3週連続注意報値を超えています。また、手足口病は県全域で減少しています。

これらの疾患は、患者の咳や水疱内容物、便などに含まれるウイルスを介して感染します。また、回復後に約2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがあります。幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避け、こまめに手洗いしましょう。

○インフルエンザに注意して！

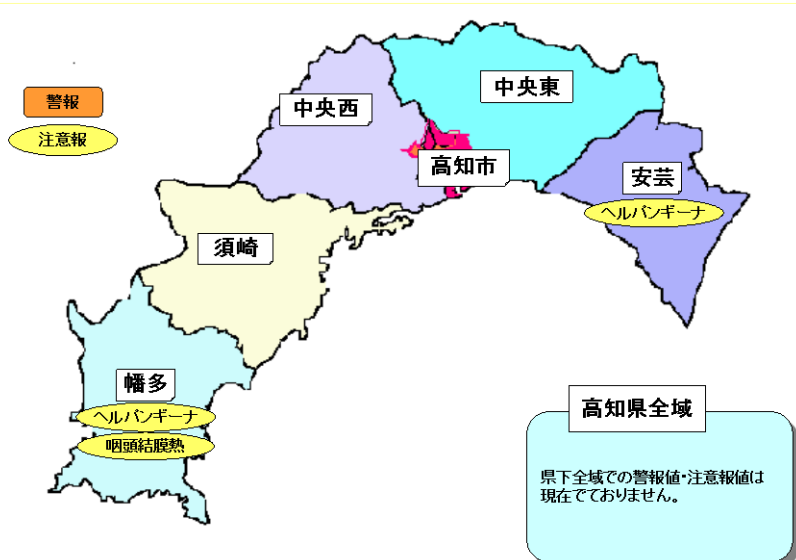
定点医療機関からの報告数は、先週の0.06から0.44と増加しています。特に、幡多福祉保健所管内では、前週0.25から2.50と急増し、迅速診断では全てインフルエンザウイルスA型で、年齢別にみると、90%以上が20歳以上です。報告は少ないですがこれから流行の時期になりますので、感染予防に気を付けてください。予防方法としては、手洗い、うがい、咳エチケット、予防接種などがあります。予防接種は免疫をつけ個人の発病及びその重症化を予防することを目的に接種します。かかりつけ医と相談し早めに受けるようにしましょう。

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	↗	3.60	安芸、中央西、高知市、須崎、幡多で増加しています。
ヘルパンギーナ	↗	1.57	安芸、幡多、中央東、高知市、中央西で増加し、安芸、幡多で注意報値を超えています。
流行性耳下腺炎	→	1.03	高知市、中央東で増加しています。
マイコプラズマ肺炎	↗	0.88	高知市で4人から5人に、中央東で2人に増加しています。
突発性発疹	→	0.67	高知市、安芸で増加しています。

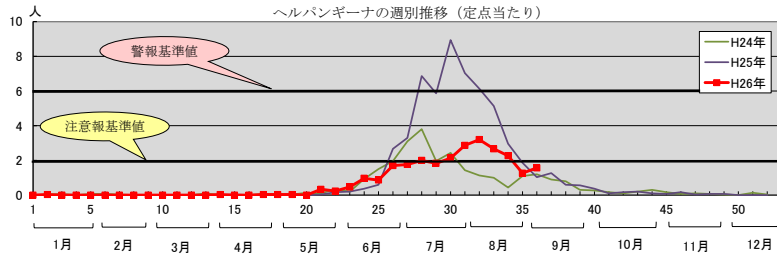
★地域別感染症発生状況



★気をつけて！

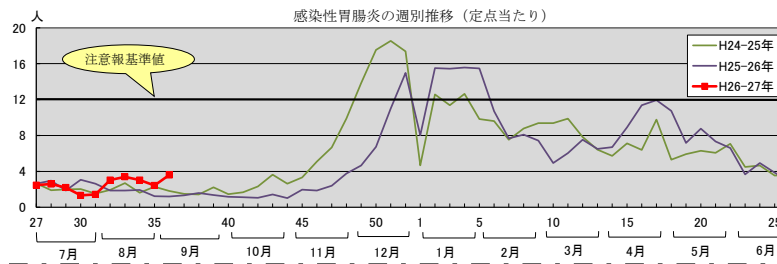
○ヘルパンギーナ：1.57（注意報値：2.00 警報値：6.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.57（前週：1.27）と増加しています。地域別にみると、安芸（4.50：前週 3.00）幡多（2.60：前週 2.40）中央東（1.43：前週 1.14）高知市（0.91：前週 0.73）中央西（0.67：前週 0.33）で増加し、安芸、幡多では注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎：3.60（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 3.60（前週：2.43）と増加しています。地域別にみると、安芸（6.00：前週 5.50）中央西（4.67：前週 1.33）高知市（4.18：前週 2.36）須崎（3.00：前週 2.50）幡多（1.00：前週 0.20）で増加しています。またホット情報ではカンピロバクター、病原性大腸菌など細菌による胃腸炎の報告が増加しています。



★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	3	96	90歳代(男)	中央東
				90歳代(男)	須崎
				80、90歳代(男)	幡多
4類	日本紅斑熱	2	7	60歳代(女) 90歳代(男)	安芸

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
安芸	田野病院小児科	アデノウイルス扁桃炎 1例 (1歳男)
中央東	野市中央病院小児科	カンピロバクター腸炎 1例 (8歳男)
	早明浦病院小児科	アデノウイルス感染性胃腸炎 1例 (8ヶ月) アデノウイルス咽頭結膜熱 1例 (5歳)
高知市	けら小児科・アレルギー科	マイコプラズマ肺炎 3例 (3、4、6歳男：いずれも迅速診断陽性) サルモネラ O-9 腸炎 1例 (9歳女) カンピロバクター腸炎 1例 (9歳女) アデノウイルス扁桃炎 1例 (4歳女)
	高知医療センター小児科	カンピロバクター 2例 (2歳男、13歳女) 病原性大腸菌 3例 (0ヶ月男 2人、11歳女) RSウイルス 1例 (2歳男) 35wRSウイルス 1例 (1歳女)
	細木病院小児科	ノロウイルス 1例 (8歳女) カンピロバクター 1例 (11歳女) 35w大腸菌 8例 (7ヶ月 2人、1歳 4人、9歳女、1歳男) サルモネラ 1例 (1歳男) カンピロバクター 1例 (9歳女)
	高知赤十字病院内科	インフルエンザウイルス B型 1例 (15~19歳男：オーストラリア渡航有り)
	福井小児科・内科・循環器科	アデノウイルス感染症 1例 (1歳女)
中央西	くぼたこどもクリニック	感染性胃腸炎 1例 (7ヶ月：須崎)
	日高クリニック	帯状疱疹 1例 (72歳男) アデノウイルス扁桃炎 4例 (1歳男 3人、2歳男)
須崎	もりはた小児科	35wカンピロバクター腸炎 3例 (9、13歳男、2歳女)
幡多	さたけ小児科	膿痂疹 3例 (0歳男、3、9歳女) アデノウイルス感染症 1例 (1歳男)
	幡多けんみん病院小児科	hMPV 1例 (3歳男)

★全国情報

第34週 (8/18～8/24)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核420例

3類感染症：細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症168例、腸チフス1例、パラチフス2例

4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎2例、重症熱性血小板減少症候群2例、つつが虫病1例、デング熱5例
日本紅斑熱4例、レジオネラ症26例

5類感染症：アメーバ赤痢8例、ウイルス性肝炎1例、急性脳炎4例、クロイツフェルト・ヤコブ病4例
劇症型溶血性レンサ球菌感染症5例、後天性免疫不全症候群12例、侵襲性肺炎球菌感染症4例
侵襲性インフルエンザ菌感染症2例、梅毒26例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、
風しん2例、麻しん6例

報告遅れ：E型肝炎1例、エキノコックス症1例、急性脳炎4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例

★デング熱の国内感染症例について (2014年9月5日11時現在)

デング熱は、蚊が媒介するデングウイルスによって起こる急性熱性疾患で、アジア、中南米、アフリカ等、世界の広範な地域で流行している感染症である。デングウイルスは蚊の刺咬によりヒトに伝播するが、感染したヒトから未感染のヒトへの直接の伝播は起こさない。国内では、デング熱を媒介するヒトスジシマカが秋田県および岩手県以南に生息しており、主に日中に屋外で吸血する。ヒトが感染した場合、高熱、頭痛、筋肉痛や皮疹等の症状を呈し、不顕性感染の場合もある。比較的軽症のデング熱では1週間程度で回復するが、一部の症例においては、より重症のデング出血熱を発症する。近年、我が国では、海外で感染し、帰国後に発症する輸入症例は、毎年200例前後報告されており、これらの症例に対する診断・治療がなされてきた。デング熱の国内での感染については1940年代に流行があったことが知られているが、その後、確認されていない。昨年以降、日本とドイツ間を直行便で往復した外国人におけるデング熱症例の報告などもあり、デング熱の国内感染が発生した際に備えての対応・対策ガイドライン等の準備が進められてきた。

2014年8月27日及び28日、国内でデング熱に感染したと考えられた症例3例が確認された。その後9月5日11時現在(厚生労働省発表分)まで、先の3例も合わせて計66例が確認されている。これらの症例は、すべて海外渡航歴がなく、北海道、青森県、茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、大阪府、愛媛県に居住している。また、66例全員が東京都渋谷区の都立代々木公園及びその周辺への訪問歴があった。

デング熱に対しては対症療法が主体であり、有効な抗ウイルス薬は現在ない。しかし、デングウイルスに感染しても重症化する場合はまれで、蚊に刺されてから3～7日の潜伏期間の後に発症するが、一般に1週間前後で回復する。デング熱に対する予防法としては、国内ではヒトスジシマカ(主に日中に屋外で吸血する)との接触を避け、刺されないようにすることが大事である。屋外の作業において、長袖、長ズボンを適切に着用するなど、肌の露出をなるべく避け、ディート(DEET)を主成分とする有効な虫よけ剤を使用する。また、室内の蚊の駆除を心掛けるとともに、屋外では蚊の幼虫が発生しやすい水たまりなど(植木鉢の水受け、空き缶や放置されたプラスチック容器等)の発生源を作らないように注意し、たまった水を捨てる等の対策を行うことが重要である。

厚生労働省は、デング熱の予防や対策についてホームページなどを用いて広報しており、自治体と連携しつつ、デング熱の国内発生症例の情報収集と分析を進めている。東京都は、患者が蚊に刺された代々木公園を中心に蚊の駆除を行う一方、注意喚起活動を強化している。東京都は2004年度から都内16カ所で蚊を採集し、デング熱などの感染症の原因となる病原体の保有状況調査を行ってきたが、これまで蚊から病原体が発見された例はなかった。2014年9月4日、東京都は、代々木公園において採集された蚊からデングウイルスが発見されたことを公表した。今後、東京都は調査ポイントを増やし、監視を強化していく予定であるとのこと。国立感染症研究所は、関係機関と連携し、ウイルス学的検査や蚊の防除に関する技術的な支援、および発生動向を中心とした情報提供を強化していく。(国立感染症研究所感染症疫学センター)

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第36週 平成26年9月1日(月)～平成26年9月7日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第36週							計	前週	全国(35週)	高知県(36週末累計) H25/12/30～H26/9/7	全国(35週末累計) H25/12/30～H26/8/31
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多						
インフルエンザ	インフルエンザ				1				20	21 (0.44)	3 (0.06)	123 (0.03)	10,763 (224.23)	1,462,663 (297.35)
小児科	咽頭結膜熱			2	1				8	11 (0.37)	8 (0.27)	1,301 (0.41)	263 (8.77)	55,757 (17.75)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				14	1	1		16 (0.53)	6 (0.20)	2,612 (0.83)	634 (21.13)	205,478 (65.42)	
	感染性胃腸炎	12	25	46	14	6		5	108 (3.60)	73 (2.43)	10,308 (3.28)	7,496 (249.87)	698,450 (222.37)	
	水痘			4				6	10 (0.33)	19 (0.63)	1,315 (0.42)	1,133 (37.77)	111,873 (35.62)	
	手足口病		1	6				1	10 (0.33)	16 (0.53)	3,244 (1.03)	83 (2.77)	43,371 (13.81)	
	伝染性紅斑								()	()	447 (0.14)	29 (0.97)	19,853 (6.32)	
	突発性発疹	1	2	11	3	2		1	20 (0.67)	19 (0.63)	2,009 (0.64)	486 (16.20)	59,209 (18.85)	
	百日咳								()	()	62 (0.02)	8 (0.27)	1,432 (0.46)	
	ヘルパンギーナ	9	10	10	2	3		13	47 (1.57)	38 (1.27)	7,079 (2.25)	791 (26.37)	113,815 (36.24)	
	流行性耳下腺炎		3	18	1	4		5	31 (1.03)	35 (1.17)	944 (0.30)	1,334 (44.47)	30,451 (9.69)	
RSウイルス感染症		1	7				1	9 (0.30)	2 (0.07)	1,234 (0.39)	312 (10.40)	27,508 (8.76)		
眼科	急性出血性結膜炎								()	()	7 (0.01)	()	290 (0.42)	
	流行性角結膜炎								()	()	506 (0.74)	21 (7.00)	14,026 (20.54)	
基幹	細菌性髄膜炎								()	()	6 (0.01)	8 (1.00)	288 (0.61)	
	無菌性髄膜炎								()	()	22 (0.05)	13 (1.63)	627 (1.33)	
	マイコプラズマ肺炎		2	5					7 (0.88)	4 (0.50)	113 (0.24)	160 (20.00)	3,929 (8.31)	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								()	2 (0.25)	5 (0.01)	11 (1.38)	218 (0.46)	
	感染性胃腸炎								()	()	5 (0.01)	136 (17.00)	3,818 (8.07)	
計 (小児科定点当たり人数)	22 (11.00)	46 (6.29)	123 (10.70)	21 (7.00)	18 (9.00)	60 (10.50)	290 (9.17)			31,342	23,681 (643.22)	2,853,056		
前週 (小児科定点当たり人数)	17 (8.50)	42 (6.00)	92 (7.78)	14 (4.66)	22 (11.00)	38 (7.45)		225 (7.26)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第36週							計	前週	全国(35週)	高知県(36週末累計) H25/12/30～H26/9/7	全国(35週末累計) H25/12/30～H26/8/31
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多						
インフルエンザ	インフルエンザ				0.06				2.50	0.44	0.06	0.03	224.23	297.35
小児科	咽頭結膜熱			0.29	0.09				1.60	0.37	0.27	0.41	8.77	17.75
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				1.27	0.33	0.50		0.53	0.20	0.83	21.13	65.42	
	感染性胃腸炎	6.00	3.57	4.18	4.67	3.00	1.00		3.60	2.43	3.28	249.87	222.37	
	水痘			0.36				1.20	0.33	0.63	0.42	37.77	35.62	
	手足口病		0.14	0.55				0.20	0.33	0.53	1.03	2.77	13.81	
	伝染性紅斑										0.14	0.97	6.32	
	突発性発疹	0.50	0.29	1.00	1.00	1.00	0.20		0.67	0.63	0.64	16.20	18.85	
	百日咳										0.02	0.27	0.46	
	ヘルパンギーナ	4.50	1.43	0.91	0.67	1.50	2.60		1.57	1.27	2.25	26.37	36.24	
	流行性耳下腺炎		0.43	1.64	0.33	2.00	1.00		1.03	1.17	0.30	44.47	9.69	
RSウイルス感染症		0.14	0.64				0.20	0.30	0.07	0.39	10.40	8.76		
眼科	急性出血性結膜炎										0.01		0.42	
	流行性角結膜炎										0.74	7.00	20.54	
基幹	細菌性髄膜炎										0.01	1.00	0.61	
	無菌性髄膜炎										0.05	1.63	1.33	
	マイコプラズマ肺炎		2.00	1.00					0.88	0.50	0.24	20.00	8.31	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0.25	0.01	1.38	0.46	
	感染性胃腸炎										0.01	17.00	8.07	
計 (小児科定点当たり人数)	11.00	6.29	10.70	7.00	9.00	10.50	9.17				643.22			
前週 (小児科定点当たり人数)	8.50	6.00	7.78	4.66	11.00	7.45		7.26						

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869